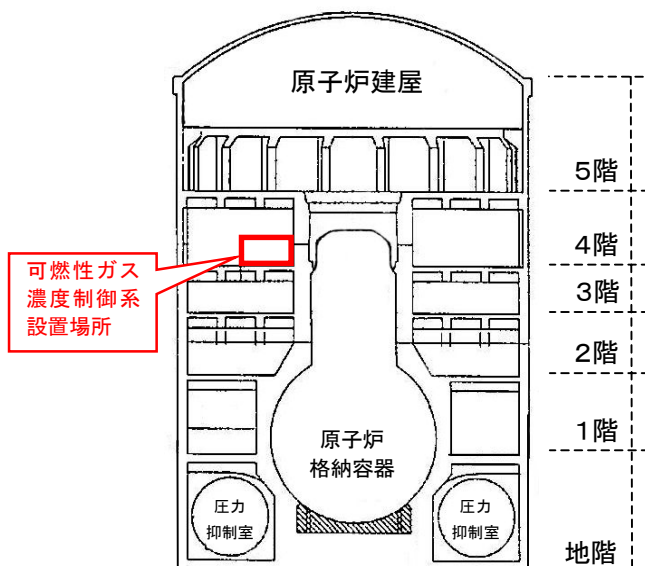


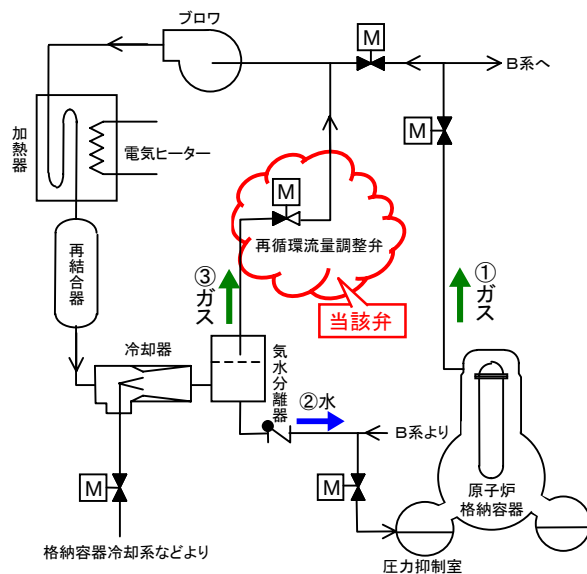
可燃性ガス濃度制御系概略図

可燃性ガス濃度制御系設置場所



可燃性ガス濃度制御系概略系統図

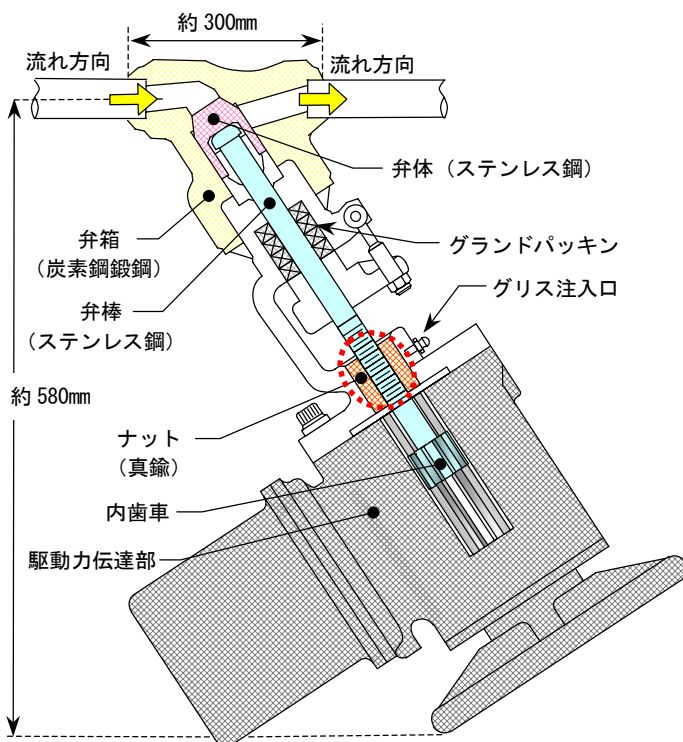
(A系流量調整弁動作不良時の弁状態を示す)



可燃性ガス濃度制御系の流れ

- ・ブロウにて原子炉格納容器中のガスを吸引(矢印①)し、再結合器にてガス中の水素と酸素を結合させ、水に戻す。
- ・気水分離器にて水とガスに分離する。水は圧力抑制室に戻し(矢印②)、ガスは希釈のため再循環(矢印③)させている。

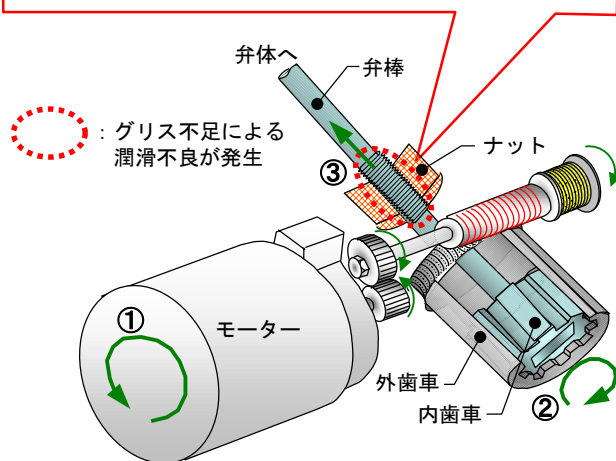
再循環流量調整弁構造図



駆動力伝達部概要図 (原因・対策)

(原因)

弁棒とナットのねじ部で潤滑不良により弁駆動用モーターに高い駆動トルクが発生し、弁が中間開度で停止したと推定。



<弁動作 (開⇒閉) メカニズム>

- ①モーターの回転がギアを介して外歯車に伝達される。
- ②弁棒と一体となった内歯車が、外歯車を介して回転する。
- ③弁棒 (回転部) とナット (固定部) のネジが噛み合い、弁棒の回転が上下の動きに変り、弁を開閉する。

(対策)

- ・弁動作試験前に行うネジ部へのグリス注入は、弁棒の位置を中間開度で実施することとし、ネジ部にグリスが十分に注入されるよう、ネジ部から外へ新しいグリスが押し出されてくることを確認する。
- なお、当該弁はA系、B系とも第 32 回定期検査時に新品 (国産の弁) に取替える。